

1 教育方針

(1) 教育目標

一、知性を愛し、自ら学ぶ喜びに燃えよう 一、視野を広め、豊かな事故の創造に努めよう 一、心身を鍛え、たくましい覇気と行動に徹しよう

(2) 校訓 友愛、自由、平等、団結

2 学校経営

(1) 目指す学校像 知徳体の調和のとれた「地域の未来をひらく人材」を育成する学校

(2) 育成する生徒像 ①自ら学ぶ生徒 ②人間性豊かな生徒 ③心身を磨く逞しい生徒

(3) ありたい教職員像

子供たちへの愛情にあふれ、豊かな人間性を備えた教職員

同僚性を育み、自らの専門性を高める教職員

前向きでチャレンジ精神にあふれた教職員



働き蜂 勤勉
羽根 勉学
胴体 高等学校

★ 評価はABCの3段階

A:良い B:概ね達成 C:改善が必要

3 学校自己評価

観点	重点目標	具体的方策	方策の評価指標	年度総括		評価	〇 達成されたこと ▼ 改善を要すること	評価	
				指標の結果					
指導力向上	教務部	生徒の実態を把握し、教材研究力を向上させ、授業を改善する	①生徒の授業アンケートを2回行う。 ②探究型授業や主体的学習の研究を進め、授業改善を進める。	アンケートの肯定的な回答が過半数。 各教科から授業研究の計画、実施報告を求める。	アンケート1回実施 目標が達成できた 1年普通科33.3% 体育科53.3% 2年普通科36.4% 体育科34.9% 3年普通科62.1% 体育科79.4% 授業研究は教科ごと実施	B		B	
	教務部	教科毎に、ICT活用等の研究を進める(効果的な指導法の共有)	教科毎にICTや補助教材の有効な活用を図る。	生徒の授業評価で肯定的な回答が80%以上		C			
	進路探究部	様々な学習場面において、思考力・判断力・表現力を効果的に育むために、ICTの活用を推進する	教務部の管理するICT機器を適切に配置し、活用しやすい環境づくりを行う	ICTを活用した授業数の増加(教員対象アンケートによる)			B		
学力向上	進路探究部	希望進路を達成するための確かな学力を身に付けさせる	平日講習及び長期休業中の講習・セミナーを実施して、進路目標が達成できる学力の確立を図る	模擬試験の成績:各学年設定の目標偏差値以上 国立大合格者数:難関大2名以上、国立大50名以上 普通科センター受験率、5教科受験率:95%以上		C		B	
	[1年]	高校の基礎学力を身につけさせる	①審査前学習会や長期休業中時に講習を実施する ②スタサポや模試の結果分析による教科指導の検討	1月進研模試でss55以上が60名以上	11月ss55以上38名	B	▼ss54以上50名と学力向上の余地あり		
	[2年]	進路目標を明確にしなが、学力を向上させる	定期テストや模試分析をふまえた教科指導を充実させる	外部模擬試験でss55以上が50名以上	11月模試33名	B	▼ss50以上の38名を引き上げる		
	[3年]	進路目標達成に向けて学力を向上させる	放課後学習会、平日講習、夏冬期講習、二次対策講習を通し志望校合格に向けた学力を付けさせる	共通テスト得点率60%以上が40人以上 国立大合格者数50名	50%以上 34名	C	▼大変厳しい結果であった		
学習意欲	教務部	①審査に向かう姿勢をより主体的なものにし、結果を意識させる	①審査に向けての学習計画を立てさせる ②審査の目標点、目標評価を設定させる	自己評価をさせ、生徒による学校評価アンケートで、「達成できた」と6割以上の生徒が答えている	①学習計画を立てる 1年普通科60.0% 体育科45.2% 2年普通科79.6% 体育科68.3% 3年普通科50.13% 体育科51.4% ②目標点を設定する 1年普通科88.7% 体育科80.7% 2年普通科94.9% 体育科82.5% 3年普通科92.7% 体育科88.2%	B		B	
	進路探究部	総合的な探究の時間における探究型学習を通して、探究心及び発信力を育成する	自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決するための資質や能力を育てる学習活動を展開する	①自分が見付けた課題を探究し、発表することができる ②ルーブリックによる評価段階の上昇	①課題を探究し、その過程を校内の成果発表会だけでなく、外部のコンクールにも複数のグループが参加した。 ②ルーブリックによる自己評価の平均値で、1、2年生ともに数値の上昇がみられた。	B	○「山形県探究型学習課題研究発表会」や「デザセン決勝大会」において、入賞作品を出すことができた。 ▼1年生の体育科のルーブリックによる自己評価の値が低い。来年度に向けて、対策を講じる必要がある。		
	[1年]	総合的な学習の時間における探究型学習を通して探究心及び発信力を育成する	探究型学習で構想力・観察力を高め、決める力と伝える力を養えるような適切なテーマを設定させる	①自分が見付けた課題を探究し、発表することができる ②アンケートの満足度の増加	自己評価では肯定的回答が多い		B		○基礎力・思考力・実践力の向上を実感した生徒多数 ▼テーマ設定が安易で探究の深まりがない生徒がいた。
	[2年]	学習に向かう姿勢をより主体的なものにし、探究型学習において問題発見力と発信力を育む	①目標と学習計画を立てさせる ②探究テーマ設定と探究学習を支援する	①学校評価アンケートで計画目標AB6割以上 ②活動後のルーブリック自己評価の向上	①75.7% ②達成	A	○探究活動において基礎力、思考力、実践力の全ての項目において向上		

自ら学ぶ生徒

習慣づくり 学習課題	教務部	家庭での学習習慣を確立させ、授業の内容をより定着させる	授業がより効果的に身につくよう、与える課題を工夫し、家庭学習を充実させる	生徒の授業評価、学校評価アンケートで「習慣がついた」回答が増えたか。	習慣的に行っている 1年普通科62.7% 体育科53.3% 2年普通科61.1% 体育科47.6% 3年普通科78.4% 体育科54.4%	B		B
	生徒部	スマートフォンを便利なツールとして有効に正しく活用できる力を身につけさせる	生徒会・学級委員・自治委員を中心に、生徒が主体的に正しい利用につながる取組みを推進できるよう支援する。	学校評価(生徒版)でスマホ使用時間対年度始比10%削減との回答が6割以上	約50%の生徒が10%減	B	▼生徒会や委員会での取り組みを具体化して実施する。	
	[1年]	家庭での学習習慣を確立させ、授業の内容をより定着させる	授業内容がより効果的に身につくよう、与える課題を工夫し、1日の学習時間を確保させる	学習時間調査で平日の学習が2時間以上高い課題提出率の維持 課題未提出者の減少	試験前 平均134分	C	▼テスト前の学習時間として少ない	B
	[2年]	学習内容の一層の定着のために家庭学習の習慣化に取り組む	質・量を精査した課題を計画的に提示する	学校評価アンケートで習慣化AB6割以上	56.40%	B	▼週末に解答を写して提出する生徒が多い	
	[3年]	家庭での学習習慣を確立させ、主体的に学びに向かう生徒を育成する	学年手帳を活用し目標と学習計画を立てさせる	学校評価アンケートで計画目標AB7割以上	計画57% 目標91%	B	▼計画性の向上が課題	
学習環境	教務部	読書に親しむ環境を整備し、書籍や情報を活用した主体的な学びを支援する	教科、学年との連携を密にして、生徒の興味・関心を考慮した図書館資料の充実を図る	学習センターの利用状況の調査 貸出状況の調査		B		B
	[1年]	生徒が本や新聞など、活字にふれる機会を提供するとともに、様々な学習場面において積極的にICTを活用する	①朝学習の時間を活用し、新聞記事を通して様々な話題に興味関心を持たせる ②授業・LHRの時間にICT機器を活用し、生徒の理解を高める	①生徒への図書の本平均貸出冊数を4冊以上に維持。 ②アンケートの肯定的回答の増加。	①平均3.2冊	B	▼新聞を提供されているが読んでいる生徒が少ない。	
	[2年]	校内の本や新聞、ICT機器を最大限活用して、思考力・表現力を育てる	朝学習や授業、特に総合的な探究の時間において、本や新聞、ICT機器の活用を推奨する	①読書感想文コンクールへの全員参加 ②本や新聞、ICT機器を活用した探究学習発表	①全員参加 ②概ねできる	A	▼提出日に出せない生徒が多い	
	[3年]	校内の本や新聞、ICT機器を最大限活用して、思考力・表現力を育てる	朝学習や授業、探究・進路学習において、本や新聞、ICT機器の活用を推奨する	本や新聞、ICT機器を活用した探究論文の提出100%	97%	B		
	総務部	生徒が安全に学校生活を行えるように学校の環境整備を行う	①災害訓練(2回/年)を実施する ②施設安全点検を月に1回行い、校舎の危険箇所を早期に発見と備蓄品の点検を行う ③奨学金の申込みの指導を適切に進める	学校評価(生徒版・保護者)で肯定的高評価合計が70%以上		B	○①新型コロナウイルス感染防止のため災害訓練は1回だったが、概ね良好だった。	B
	総務部	学校運営が円滑に進むようにする	職員会議・式典を円滑に行う	職員にアンケートを実施し、良かった点や改善点を職員で共通理解できたか。また学校評価(教職員)で肯定的高評価合計が70%以上		B	○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年とは違う形での式典になった。概ね良好に行われた。	
	保健部	環境の美化に貢献できる公共心を育む	①丁寧な清掃活動(黒板周辺とベランダの強化) ②雑巾がけの徹底(毎週火曜日、複数回も可) ③生徒による清掃点検の実施	清掃点検のA評価80%以上 (前年度A評価: 72% B:27.5% C:0.5%)	A=69.5%(73.5) B=28.6%(26.0) C=1.9%(0.4) ()は前年度比	C	▼生徒による学校評価「丁寧な清掃をしている」ではAしている=73.7% Bある程度=25.4% Cあまりしていない=1.0% Dしていない=0.0% ▼男子トイレや床の汚れは毎日少しづつローテーションできれいにしていく。	
	[1年]	身の回りの環境に目を向けさせ、それを改善しようとする公共心を育てる	①丁寧な清掃活動ができるよう指導する ②生徒一人ひとりが公共の空間であることを認識し、整理整頓に努めるよう指導する。	清掃点検で、「清掃が徹底されている」のA評価が90%以上		B	▼環境整備は概ね良好だが細部の汚れが指摘された。	
	[2年]	学習環境に目を向けさせ、それを改善しようとする公共心を育てる	①丁寧な清掃活動ができるようにする ②始業時に教室内整頓を確認する	学校評価アンケートで清掃AB9割以上	98.90%	A	○清掃点検において全箇所A評価が3回あった	
	[3年]	自発的に環境美化に努め、愛校心を育む	①丁寧な清掃活動ができるようにする ②始業時に教室内整頓を確認する	学校評価アンケートで清掃AB9割以上	①99%	A		

目標設定	進路探究部	進路意識の高揚を図り、高い志を貫き通すことができるようにする	①適切な時期及び内容の進路講演会や研修会を実施する ②「志望届」を2年で完成させ、生徒個々の志望を組織的に把握する	①進路講演会後のアンケート調査で肯定的な回答が8割以上 ②2年3月までに「志望届」を完成		B	
	[1年]	進路学習や研修会を通して進路意識を高める	①学習ガイダンス・進路ガイダンス・進路研修会・山形大学訪問を実施する ②大学等の外部の講座への参加を促進する	①アンケート調査での肯定的な回答が8割以上 ②志望学部学科を具体的に回答した生徒が増加		B	②具体的な志望記入が増加
	[2年]	面談・家庭との連携・外部体験活動等あらゆる機会を捉えて進路の明確化を図る	学期毎に進路希望調査を実施する	学校評価アンケートで家庭での話し合いAB6割以上	73%	A	
	[3年]	受験システムを理解させ、進路希望を明確にし、高い志を維持できるよう努める	①受験についての情報を保護者と共有する ②進路ガイダンス・研修会を開催する	学校評価アンケートで、進路行事AB8割以上	時期97%	B	○開催時期と参加率はまずまずであった
基本的生活	生徒部	生徒一人ひとりに規範意識を定着させることで、安心安全な学校環境づくりを推進する	①交通事故0(ゼロ)維持日数を掲示する ②いじめ案件に対し迅速かつ組織的な対応をとる ③頭髪服装検査を定期的実施する ④自転車点検および登下校時の安全指導の充実を図る	交通事故件数1桁。 特別指導事案発生件数前年度比50%減	交通事故発生件数、特別指導事案件数共に前年度比微増	C	▼コロナ禍収束を期待し、基本的な生活習慣の確立から改めて着手。
	保健部	互いに多様性を認め合い、誰もが安心して学校生活を送れるように支援する	①生徒および保護者が健康相談しやすい環境をつくる ②当該学年と保健部が連携し、特別な支援を要する生徒へきめこまやかな対応をする	健康相談件数を昨年度(112件:生徒31 保護者29 職員52)より増やし、早期の対応を講じる		B	○重症化が心配される生徒には医療機関の受診を勧め、医師とつながることができた。 ○一部の生徒には、相談の時間が「話せる場」の提供にもなっていた。 ▼保護者による学校評価の相談体制ではAでできている=21.3% Bある程度=62.9% ▼学校HP等でも相談日をわかりやすく提示。
	体育部	自己管理ができる生徒を育成する。	①学校を休まないで登校する。 ②文武両道を実践する。	①出席率99.2%	2学期出席率 99.3%	B	○全体として、欠席もない学校生活を送ることができた。 ▼健康観察の inputs が徹底されるようにする。
	[1年]	基本的な生活態度を向上させる	①生活リズム(三点固定)の大切さを強調する ②学校や社会の規律の遵守を指導徹底する。 ③スマホの適切な使い方を繰り返し指導する。	①学習時間調査、アンケートにおける学習時間、睡眠時間の確保 ②特別指導案件0 ③違反によるスマホ預かり件数10件以内に抑える	②特別指導1件	B	○スマホの使用ルールを学年クラスで話し、生徒が主体的設定した結果、預かり件数は10件以下と少なかった。
	[2年]	基本的な生活習慣を身につけ、自律的行動ができる集団づくりを推進する	①私物管理を啓蒙する ②時間管理を指導する	①放課後に廊下、ロッカーの上に荷物を置かない。ロッカーの施錠 ②朝学習の定刻開始	①管理できない生徒がいる ②概ね良好	B	▼ロッカー内の整理をさせる
	[3年]	基本的な生活態度を身につけ、良識ある行動がとれる生徒を育成する	①私物管理を啓蒙する ②時間管理を指導する	①違反によるスマホ預かり件数10件以内 ②朝学習の定刻開始	①4件	B	
	集団づくり	生徒部	生徒一人ひとりに多様な場を提供し、集団を率いる力・集団に貢献する力の育成を推進する	生徒会各種委員会の自発的活動を支援する	学校評価(生徒版)で6割以上が評価	70%超が評価	B
[1年]		ボランティア活動や部活動 全校応援等の活動を通して他者を思いやる公共心を育成する	①各種競技の全校応援を通じて仲間を本気で応援できる心と帰属意識を高める ②他人の個性を認め、尊重しながら生活するよう指導する	①アンケート調査で肯定的な回答が60%以上 ②重大いじめ案件 0件	①肯定的な回答96% ②重大いじめ案件0件	B	▼重大案件に至らずともアンケートで訴えた生徒が数名
[2年]		校内外の多様な活動への参加を推進し、広い視野と協調性を育む	①集団行動でのルールを尊重させる ②生徒会活動への積極的参加を促す	学校評価アンケートで、生徒会および学校行事への参加意識AB8割以上	69.60%	B	
[3年]		自律的な行動を促し、集団生活や社会的規範を意識した生活を送らせる	①集団行動でのルールを尊重させる ②生徒会活動への積極的参加を促す	学校評価アンケートで、生徒会および学校行事への参加意識AB8割以上	95%	B	

豊かな生徒

キャリア教育	進路探究部	協調性に富み、社会に貢献しようとする姿勢を育成する	総合的な探究の時間を活用したキャリア教育を実践する	総合的な探究の時間に関するアンケート調査で肯定的な回答が8割以上		B		A
	体育部	体育の授業を通して、スポーツの振興発展に寄与する生徒を育成する	①新教育課程に向けたシラバスを立案する。 ②体育授業の環境整備を行う。 ③担任・顧問による進路個別相談を実施する ④授業における指導法を充実させる。	①シラバス作成 ②施設面の充実 ④進路指導の充実 ⑤自己評価、他者評価	②視聴覚機材・50周年記念館の整備が行えた。 ④進路確定(75名/78名) ⑤指導単元の研究推進を進めている。	B	OR5年の全国学校体育研究大会に向けて、施設面の点検と整備を順調に行なうことができた。 ▼第一志望の進路目標が達成されるように、早い段階での面談と準備のための指導が必要である。	
	[1年]	社会と自分の関わり方を考えさせる	各種適性検査や進路研修会を通してキャリア教育を実施する	検査結果や進路行事のアンケート調査で、役に立ったという回答が8割以上	肯定的回答8割以上	A	○大学出張講座ではアンケートから進路意識の向上が見られが多く有意義なものとなった	
	[2年]	社会人としての資質を涵養する	キャリア教育総合実践プログラムの柱である進路ガイダンス・進路研修会を充実させる	学校評価アンケートで、進路行事AB8割以上	87.60%	A		
	[3年]	卒業してそれぞれが社会人としての1歩を歩みだす	キャリア教育総合実践プログラムの集大成として、生徒が安心して進路決定に挑戦できる環境を整える	進路決定100%	現在56%	—	少ないチャンスを最大限生かして最後の1人までサポートして行きたい。	
社会貢献	生徒部	豊かな人間性や社会性を育むために、部活動単位でのボランティア活動を推進する	各部にボランティア実施計画書・報告書を提出させ、具体的・実効的なボランティア活動の充実を図る。	学校評価(生徒版)で6割以上が評価		A	▼コロナ禍で活動がかなり制限された。	A
	体育部	規範意識を持ち、協調性とおもいやりのある生徒を育成する	①各部でボランティア計画を作成する ②時宜を得た集会と早めの対応	①ボランティアの実施状況 ②問題行動の件数	②問題行動 2件2名	B	○校内で行える活動は、各部とも工夫をしていた。 ▼問題行動の皆無はならなかった。	
地域連携 保護者連携	総務部	学校の魅力を校外へ発信する	①HPを充実させ、学校の魅力を地域に発信する ②学校だより、PTAだより(年2回発行)を第六学区の回覧板に盛り込んでいただき、学校の様子が地域の幅広い年代層の方々にも伝わるようにする	学校評議員及び保護者の学校評価で肯定的評価が70%以上		C	▼HPに関しては保護者から厳しい意見が寄せられた。体育科や部活動の更新は多いが、普通科の活動や、一部の部活動の更新が滞っている。	B
	総務部	在学生への社会的支援と家庭との連携に寄与する	奨学金制度を随時案内する	奨学金制度案内についての保護者からの苦情が0		B	○概ね良好だった。	
	総務部	PTA活動等を通して、保護者と連携を密にする	①一声運動を実施し、学校の様子を保護者に見ていただき、あいさつの励行を行う ②保護者による学校評価アンケートで調査する	①一声運動参加80%以上 (H30 68%) ②学校評価(保護者)で肯定的評価が70%以上 (活動参加は80%程度あり)		B	○肯定的な意見は多かったが、一部厳しい意見もあった。	
	[1年]	学校と家庭の連携を図り、学習環境の整備や生徒理解を深める	①学年便りを発行し、学校の様子を伝える ②HPへの掲載を充実させ、学年の魅力を発信する	①PTA総会出席率 70%以上 ②学校評価(生徒版、保護者版)AB 70%以上	①総会出席率44.4% ②学校評価AB 65.3%	B	○学年だより7号発行 ▼コロナ禍により出席率減 ▼HPの情報量と更新が少ないと回答30%	
	[2年]	学校と家庭の連携を図って、生徒理解を深め、生徒の活動を支援する	学年通信等の各連絡を確実に家庭に届けるとともに、保護者の疑問や不安に面談等で応える	学校評価アンケートで、連携AB8割以上	項目なし	B	○心配な様子の生徒に気づき、担任が家庭と連絡を取り対応策をとっている	
[3年]	学校と家庭の連携を図る	①学年通信等の各連絡を確実に家庭に届ける ②保護者を対象とした進路研修会を開催する。	学校評価アンケートで、連携AB8割以上	78%	C	▼まさしくコロナの影響もあつたか		
学習時間	進路探究部	学習習慣の定着と学習時間の安定的な確保及び伸長を目指す	学習時間調査を適宜実施・分析し、現状把握と適切な対応を行う	学年+1時間を目指す		C		B
	[1年]	家庭学習と隙間時間の使い方を工夫するよう指導し、学習時間の確保を目指す	学習時間調査による分析をもとに時間の使い方を指導する。	学習時間調査で平日の学習が2時間以上	9月調査 普通科 平均155分	B		
	[2年]	家庭学習の定着と学習時間の伸長を目指す	学習時間調査による分析をもとに適切なアドバイスをを行う	学習時間180分以上(普通科)	平均では目標に達していなかったが、試験前はかなりの時間を取って学習していた。	B	▼試験直前と普段ではかなりの違いがある	
	[3年]	3学年として効果的な学習習慣を確立させる	学年手帳を活用して、目標計画にそった学習習慣を指導する。	平日学習時間4時間以上、休日6時間以上 (部活がない時期)	—	B	○未調査だが、放課後講習、塾を活用して学習に励んだ。	

心身を磨く逞しい生徒

健康管理	保健部	主体的に自己の健康管理をし、健康で安全に暮らすための意識の向上を図る	①健康診断を実施し、その後の有所見者に対する受診を徹底する ②精神保健に関する講演会を実施する ③感染症予防のため、登校前の検温と記録、および毎朝SHR時の健康観察を確実に実施する ④体育科職員や顧問と連携し、部活動での安全教育・食育を行う ⑤「ほけんしつより」や保健委員会の掲示物での啓発活動を行う	①有所見者の受診状況 視力 前年度比20%アップ ②講演会後のアンケート役に立つ85%以上 ③健康観察簿提出100% ④部活動での安全または食育教室の実施80% ⑤年間10回以上「ほけんしつより」発行	①視力56.9% ②歯科8% ③薬物99% ④ストレス7% ⑤ほぼ100%	B	○コロナ禍だが、健診後の受診率向上は、視力においては達成できた。 ▼歯科受診率の向上 ○「ほけんしつより」は適宜発行できた。 ▼基本的な感染症対策を継続する(保護者による学校評価では99%なされている)	B	
	保健部	ストレスについて理解し、心身ともに明るく健康な生活を送れるように支援する	生徒保健委員会による「ストレス」についての研究活動を支援する(継続研究2年目) ①ストレスについての理解を深め、各自がそれぞれの心身を見つめる機会とする。 ②対処方法を知り、実行することによって、主体的に心身の健康管理をするための知識や力を養う。	研究の過程で実施するアンケート調査の結果		A	○多くの2・3年生はコーピングへの意識が高まり、その方法の幅が広がった。 ○1年生については、3月の特別時間割の中に計画実施予定。		
	[1年]	健康で安全に暮らすために、主体的に自己の健康管理をする意識を向上させる	①健康診断・各種検査の実施後の受診を呼びかける ②事故や怪我がないように留意させる ③感染症対策の徹底させる	①有所見者の受診率は歯科50%以上、視力70%以上 ②振興センター災害給付申請件数50件以下	①歯科8.7% ②視力61% ③件数50件以下	B	▼感染症対策に気の緩みが出ていた		
	[2年]	健康で安全な学校生活を送るために主体的な自己管理能力の向上を推進する	①受診・治療の呼びかけ行い報告書の提出を促す ②感染症予防対策を主として、健康観察による生徒の健康状態を把握する	①有所見者の平均受診率50%以上 ②出席率99%	①歯科2.9 視力51.4 ②2学期末97.8%	C			
	[3年]	安全・健康に留意し生徒自ら主体的に健康管理ができるよう意識を向上させる	①健康診断・各種検査の実施後の受信を呼びかける。 ②事故や怪我がないように健康観察による生徒の健康状態の把握する	①出席率99% ②有所見者の平均受診率50%以上	①97.3% ②43%	C	▼コロナ禍で登校する雰囲気をも高めるのは困難であった。		
食育	保健部	食に関する意識を向上させ、主体的に改善していこうとする姿勢を養う	生徒保健委員会活動(ほけんだより)に掲載し、改善のための提案や呼びかけの支援をする	管理栄養士等による栄養指導受講部活動単位で1回以上/年		A	○体育科1・2年生を対象に、県の「活力あふれる食育推進事業」による栄養指導を実施。 ○各運動部ごとに食育講座を実施。	A	
生徒会	生徒部	挨拶運動や全校応援を通して、山形中央高校への帰属意識の涵養を図る	①生徒会・学級委員会・自治会によるあいさつ運動を実施する ②チーム中央の一体感を味わえるような壮行式や全校応援における充実した応援体制をとる	学校評価(生徒版)で6割以上が評価		C	▼生徒同士の直接的コミュニケーションの機会が大幅に減少していることに対する手立てが必要。	C	
部活動	生徒部	部活動の指導を通して、競技力のみならず人間力の向上を図る	部活動目標シートの作成と掲示を行う	学校評価(生徒版)で6割以上が評価	80%超が評価	B	▼人間力・人間性の向上につながる指導をもう少し重視してほしい。	B	
	体育部	全国大会で勝負できる力を持った生徒を育成する	①各部の活動をより一層充実させる ②施設の整備(人工芝のグランド整備等)を推進する ③優秀な生徒を確保するための手立てを検討する	①県大会優勝数15 ②全国大会出場数190(団体10) (夏季130・冬季60) ③全国大会入賞数40(団体1)(夏季10・冬季30)	①県大会団体優勝数8 ②全国大会出場数124(団体3) (夏季・冬季) ①全国大会入賞9(夏季5・冬季4)	B	●全国大会出場人数、入賞数は目標に届かなかった。各部とも「強い山形中央」を取り戻すように奮起していきたい。 ▼授業のための機材は充実できたが、施設の整備については今後も継続して要望をしていく。	B	
学校経営	同僚性	管理職	協動的な働き方を推進し、同僚性を高める	①部長主任に働きかけ、分掌内で協動的な働き方を促進する ②退校時間が連日遅い職員に声掛けや面接を行い、業務の平準化が図れるよう部長主任と調整を行う	職員アンケートによる自己評価	業務の平準化 43.5%→30.8% 同僚性の確立 69.6%→64.1%	C	▼昨年より、数値は減少。 アンケートでは、分掌と学年団の業務分担の明確化の意見。	C
	専門性	管理職	教師に求められる指導力の向上を図る	①教員の力量を向上させるために研究授業や校内研修会を実施する ②校外研修会に積極的に派遣し、幅広い情報を職員間で共有する	職員アンケートによる自己評価	研修計画実施 69.6%→64.1% 指導法の工夫、改善 93.5%→74.4%	C	▼研修会を開催するほかに、様々な場面で積極的にICT機器を使用することが必要。	C
	健康管理	管理職	職員の健康状態に留意し、休暇を取りやすい職場環境を整備するとともに、職員が自ら健康維持増進に努めるよう喚起する	①夏季特休・リフレッシュ特休・リフレッシュ年取得の推進、代休・振休の履行を徹底する ②健康診断後の再検査・精密検査を早期に実施してもらう ③職員の業務負担に目を配り、業務量の平準化に努める	①年休・代休・振休の取得環境についての職員アンケート昨年比 ②再検・精検100%の実施 ③一斉退校日の実施状況 ④年休5日以上取得者率85%以上(4月～12月)	①87.0%→84.6% ②79.3%(R2:79%) ③10回中3回達成(30%) ④79.3%→85.0%	C	▼再検等は年度内に。 ○年休等取得環境を更に整える。(平均10.6日:昨年9.6日)	B

学校関係者評価委員からのご意見・ご提言

- ①スケート部OBのオリンピックでの活躍を称賛します。新聞紙上で紹介される中央高校生の活躍は、毎回誇らしく感じています。さらに、紙上においてはスポーツ面のみならず「チーム・山形しかCATAN！」の動向も紹介され、山形中央高校の活躍の幅広さを感じております。
- ②中央高校では、ICT教育またはその環境はどの程度進んでいるのでしょうか。生徒数のタブレットや電子黒板、無線LANの環境は最低の条件です。授業の準備に、授業に活用、生徒にICTの活用方法の指導、モラルの指導、校務にも活用などによってデータ化を進めていってほしいと思います。
- ③コロナ禍で難しい対応に日々追われながらも熱心にご指導いただいている教職員の方々に敬意を表します。
- ④大学入試に「情報」が入ることが発表されました。普段の授業でのICT活用はもちろんですが、先生方の意識改革も必要ではないかと思えます。黒板とチョークだけの授業ではなく、必要に応じてデジタル教材の活用も取り入れてほしいです。
- ⑤部活動などもあり、時間の確保が難しいかもしれませんが、家庭での学習時間が少ないと思えます。将来の夢を達成するための道筋を示し、目標を持たせることが必要と感じます。今回のオリンピックに出場したスキー部のOGの方のように夢を追い続ける姿勢、自分の夢を持っていることが、不登校への対策になるのではないのでしょうか。
- ⑥読書量が少ないのが気になります。図書館の貸し出し数が少ないだけで、自分で購入したり、ダウンロードしたりしたものを読んでいるのならよいと思えますが。
- ⑦様々なところで中央高生のボランティア活動を目にします。「やらされている。」というのではなく、「こういうことをしてみたい。」というような能動的な態度が高まるように今後ご指導お願いいたします。
- ⑧現役ばかりでなく、OB・OGの活躍が報道され、うれしく思っています。勝つことばかりに執着するのではなく、心の成長も指導していくことを今後ともお願いします。
- ⑨コロナ禍の中で、部活動ができない状態が続いており、あいさつ等の基本の“キ”ができていないように感じますし、努力の成果を感じられないで卒業していきのではないかと心配です。また、以前と同様な行事もできず、学年間での行事の継続という点でも危惧しております。
- ⑩自転車の乗り方やの登校時の交通安全について、他校や警察と協力体制を構築していただきたいと思います。
- ⑪先生方の多忙感が伝わってきます。校務内容の精選を行ってほしいと思えます。しなければならないもの、したほうがよいもの、なくてもよいものを、このコロナをきっかけに見直してもよいのではないのでしょうか。先生方は大変頑張っていると思うので自信と誇りをもってください。また、先生方も休暇を取って、英気を養ってください。そのことが生徒たちの力になっていくのだと思えます。